

サポ通

サポ通は、認定NPO法人さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です

さばえNPOサポート通信

■ Vol.43&44 合併号

発行日 ■ 2024年03月31日

発行 ■ 認定NPO法人

さばえNPOサポート

編集 ■ 広報委員会

ぬえ

【空鳥】

平安時代に御所に現れたという妖怪。
頭が猿、胴が狸、四肢が虎、尻尾が蛇の
複合獣(キメラ)的な姿で描かれる。

複合交流施設を 本当の “交流の場”に するために



■ 嚮陽会館のリニューアル

鯖江市桜町にある嚮陽会館を新しい目的を持ってリニューアルする計画が進んでいます。

1階部分は、子どもたちやそのご家族が安心して楽しめ活用できるエリアを中心に据え、2階には現在NPOセンターが担っている市民活動の拠点を遷し、ハローワークや学生さんたちの自主学習の場としても“集約する”という方針です。

計画の中で「嚮陽会館複合交流施設」と呼ばれるこの場所が、本当の意味で市民の生活に資するものとなるために、一番大切な視点は何かでしょうか。

今回は、「複合」と「交流」それぞれの言葉にこだわりながら、そのことについて考えてみたいと思います。

■ 「ヌエ」

平家物語などに登場する「ヌエ」という妖怪をご存知ですか？

猿や狸、虎、蛇が合体した「複合獣」のような外見。

若い世代ではあまり馴染みがないかもしれませんが、日本語で「ぬえ的な」という表現もあり、「得体の知れない」「よくわからない」人や組織などへの形容詞として使われます。

色々な動物…つまりアイデンティティーが「複合」しているため、説明しようとしても「つかみ所がない」…ということなのでしょう。

もともとが妖怪の名前ですから、どちらかと言えばネガティブ

な印象な

のは否めません

が、「複合」すること自

体が悪いわけではないで

しょう。

色々な役割や目的を持った人々・

組織が集う場所を「複合」というのなら、それが「得体の知れない」モノになるのか、「多様性を持つ、懐(ふところ)の深い」モノになるのかは、それぞれの主体(アイデンティティー)をつなげる、「一貫した何か」の有無で決まるのかもしれませんが。

■ “商業”なら…

「複合施設」と言えば、色々な種類のお店やエンターテインメント施設が集まる「複合商業施設」というのも思い浮かびます。

アル・プラザ鯖江などもそのひとつとですよ。

「いろいろなジャンルや種類の商品を同じ施設で買うことができる」「家族のお出かけの場として、お食事や映画、ボウリングなどを一ヶ所で楽しめる」…そんな、「欲しい商品や楽しい時間を手に入れられる」という一貫性は、とてもわかりやすいです。

では、嚮陽会館が生まれ変わる「複合施設」とは、どんな一貫性を持つ場となるのでしょうか。

次ページへ→



→前ページから

■「交流」がカギ?

響陽会館複合交流施設は、商業施設のように、お金で品物や時間を買うことが大きな目的の場所ではありません。

強いて言うなら、それぞれの市民が、自分や家族の生活や活動のために活用するための施設です。

ただ単に、多様な立場の人や組織が、“別々”の目的で集まるだけなら、それは「寄せ集め」の利用者が出入りする「ヌエ」的な施設となる可能性が高いように思われます。

例えば「子どもの遊び場」と「子どもを持つ親たちのコミュニティ」は相性も良く、施設の方向性としてはわかりやすい形です。

ただ、そこを「市民活動団体(NPO等)」や、自主学習したい「学生」「社会人」も同時に利用することは、相性が良いことばかりとは限りません。

何かの勉強やプロジェクトに集中したい時、それとはあまり関係のない世代や目的の人たちが近くにいることは、時には“雑音”として邪魔になることもあるでしょう。

逆に、誰か外部の人や組織やアイデアなどとの「新しい出会

い／刺激」を期待する場合には、大きな可能性を秘めているのかもしれない。

その可能性が宿るものこそ多様で多彩な「交流」ではないでしょうか。

もちろん、「寄せ集め」的な利用のあり方でも、施設自体の存在意義はありますが、せっかく色々な立場や世代の利用者が集まる施設なら、そこでしか生まれない何かを理想に掲げることは大切でしょう。

■「複合交流施設」の弱点?

では、新しい施設のキモが「交流」にあるとして…だからこそ気をつけなくてはいけないポイントにも目を向けてみましょう。

他の誰か(あるいは組織など)と「交流」することとは、言ってみれば「異質な相手と折り合いをつけること」です。

価値観や立場の違う相手とのコミュニケーションは、ほとんどの場合「どちらが正しいか」を決めるのではなく、「そんな見方もあるんだね」と、お互いに学び、許容し合うことではないでしょうか。

それが多様性のある社会の強みであり、うまくいけば、そこから新しい世界が開けてもきます。

ただ、先ほども書いたように、それは「自分のことに集中すること」とは、逆の方向性を持っています。

例えば、なにがしか創造的(クリエイティブ)な時間が必要な場面で「交流」を強いられることは、苦痛に感じられることさえあるものです。

同じようにプライベートな時間に音楽や読書を楽しみたい時にも、その場に見知らぬ誰かが入り込んでくるのは嬉しくないですね。

つまり「複合交流施設」とは、文字通り「交流」の場としてこそ本領を発揮するものだろうと言うことです。

これは、特に市民活動団体において忘れてはいけない点ですが、個人と同じように、NPOのような組織にも、個性やアイデンティティがあります。

開放的に外部との交流を求めて活動する時もあれば、組織の内部に目を向けて、試行錯誤や熟考に耽ったり、アイデアの創出にエネルギーを費やしたい場面もあります。

個人なら自宅に帰れば良いのですが、組織となるとそれを自宅に持ち込むことが良いとは限りませんよね。

残念ながら現状では、組織としてのプライベートを保ちつつ、全ての関係団体が新しい施設を“拠点”とするには、物理的な制限もあって難しいところもありそうです。

市民活動団体としては、これから先、そんな環境に適応するための努力や工夫も必要なのですが、そこで本当に“断捨離”して良いものとダメなものを仕分けるのは、そう簡単ではないかもしれません。

できれば活動の現場に身を置く多くの関係者の声を反映させながら、長年築き上げてきた「市民主役のまち鯖江」の財産と可能性を、できる限り保てるような進め方をしていきたいものだと思っています。

そしてどんな形であれ、各々の組織と関係者の最低限の「居場所」と「交流」の場を存続させていきたいものです。

■自発的&ワンストップ

ここまで、新しい施設の価値は「交流」することにかかっているのでは…との趣旨で書き進めてきました。

もう一点付け加えるなら、できればその「交流」も、できる限り自発的に生まれてくるものであって欲しいと思っています。

「やらされ感」のある事業が、市民活動の現場でいかに人を消耗させていくかは、多くの人が口にする話です。

それは、人間や組織同士の関係性でも同じこと。

誰かに「あなたとあなた、このプロジェクトのために組みなさい」なんて言われたところで、本当の力の何パーセントを発揮できるか怪しいものです。

自分の中に思いがあればこそ、人も組織も“自分ごと”として活動に参加して頑張れる！ だからこそ、新しい施設は自発的な「交流」を醸成するための機能と仕掛けが大切でしょう。

もうひとつは、せっかく多彩な人や組織が集まる施設であるからこそその理想像。

いろんな課題に「ワンストップ」で解決に取り組める場所にしていきたいという目標です。

特に、子どもたちが利用する施設なので、子どもや子育てに関わる課題に多方面の市民活動団体からの助言やサポートが得られる場にできれば、それがモデルとなって他の色々な課題への対応にも道が開けるかもしれません。

本来、行政機関がその役割を担っているわけですが、そこに「市民活動」の要素が加わるところに「市民主役のまち」としての鯖江の未来が見えるとは思いませんか。

■ここからが正念場

新しい施設がグランドオープンするまでに、あと数年。

その間に、市民と行政の間でどれだけ実のあるやり取りができて、お互いの「大切なもの」を共有し合えるか。

既に様々な制約もある中でしょうが、おそらく、それが、生まれ変わった郷陽会館が地域に必要とされるかどうかの分かれ目になる気がしています。

そして、それこそが、今、私たちがしなければならないとても大切な「交流」なのではないでしょうか。

刺さる! キャッチコピー

市民活動広報講座

3月21日(木) 13:30~15:00 / 19:30~21:00

さばえNPOセンター

講師: 松田 恵氏

クッス! じわっ! グサッ!

90分コース(無料)

興味があれば、どなたでもお気軽にご参加ください☆

お申込先FAX: 0778-54-7058 (さばえNPOサポート)

お申し込み・お問合せ: 〒318-0024 鯖江市長寿寺町1-1-20 さばえNPOセンター内 さばえNPOサポート

TEL: 0778-54-7055 E-mail: info@saba-e-npo.org 貴ご記入いただいた個人情報は、この事業のみに使用させていただきます

2024/3/21(木)

市民活動広報講座

「刺さる! キャッチコピー」開催!

今年度の市民活動団体向けの講座は、久しぶりの広報講座。

媒体を問わず大切な役割を果たす「キャッチコピー」の作り方にスポットを当てた90分のコース。

少しでも多くの方が参加しやすいようにと団体さんのご希望もお聞きしながら、同じ内容で「昼の部」「夜の部」のダブルヘッダーの形で実施しました。

チラシやweb記事などの広報アイテムを『情報のショーケース』とするなら、キャッチコピーは、そのケースを開ける『鍵』。

文字通り魔法の「キー(鍵)ワード」となって、伝える相手の心に刺さるようなフレーズを創りたい!

そのためのセンスとノウハウを、簡単なワークショップも含めたコンパクトなパッケージで提供しました。

講師は、さばえNPOサポートの広報媒体も手がける松田恵氏。



- 「写真やイラストと、キャッチコピーの違い」
- 「名作コピー鑑賞会」
- 「刺さるコピーの発想法」
- 「発信者として気をつけたいこと」 …などなど

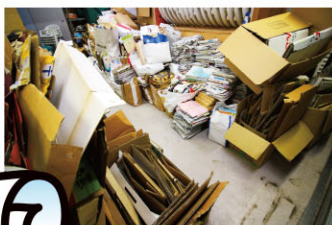
楽しく盛りだくさんな内容で、和気あいあいとした雰囲気での講座となりました。

事業や団体の存在意義など、キャッチコピーを創るためには、伝えたいことの本質にいかに向けるかが勝負!

広報担当者だけでなく、団体の運営にも関わる奥深さに、参加者の皆さんからも好評をいただきました。

令和5年度 「ちりつも」ボランティアご報告

41,050円 ちゃ



【雑紙資源回収】

NPOセンターでは、雑紙などの紙資源のお持ち込みをいつでも受入中。
令和5年度の売却益は1年間で計4回、41,050円でした。
ご寄付として、地域の市民活動のために活用させていただきます。ありがとうございました。



187,279円分 でした～

【ベルマーク回収】

お家で行き場のないベルマークを回収・整理・集計し、鯖江市PTA連合会さん等を通じて、ご希望のあった学校やこども園さんなどに贈呈しています。
令和5年度は、1年の合計で、187,279円分のベルマークをお渡することができました。
雑紙と同様、お家に眠る“資源”を地域に役立てるプロジェクトの一環です。



ベルマークのシステムは、実は海外の教育現場にまで恩恵のある大きな社会貢献の仕組み。
買った商品にベルマークを見つけたら、ぜひNPOセンターまでお持ちください☆



べるまー子



ありがとう☆

鯖江の市民活動情報ブックレット

OSANPO

発刊!!

～12歩目～

- A4版・16頁・総天然色
- ご希望の方は「さばえNPOセンター」まで(無料)
- PDF版も公式サイトで公開中!!

【特集「市民主役」の現状】さばえ市民主役フェス2023/コラム
/サバヌシ総会2024/ライター座談会 など



広報サポーター募集中!!

★簡単なお手伝いでもOK。個性的な仲間が揃ってます☆
詳しくは、さばえNPOサポート事務局・松田まで。

編集・お問い合わせ

認定NPO法人 さばえNPOサポート

〒916-0024

福井県鯖江市長泉寺町1丁目-9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-54-7055 FAX: 0778-54-7058

【Eメール】 info@sabae-npo.org

【ホームページ】 http://www.sabae-npo.org